

「夏山へ」



夏山のシーズンです。コロナ禍を逃れ、涼をもとめて雪渓残る高山へ。テレビでも「百名山」や「グレートヒマラヤトレイル」といった番組に人気があり、登山人口が増えているようです。北穂高岳に向けて。

日本リアリズム写真集団

菅谷秀昭

鈴鹿のみなさんへ ごあいさつ

衆議院議員 もとむら伸子

鈴鹿市後援会の皆様、いつも本当にありがとうございます。コロナ禍のもと、いのち最優先の政治に変えたいとの思いはつものばかりです。

菅政権は、病院のベッドを削減したら、消費税で100%補助金を出す法案を強行してしまいました。今年度だけでも1万床減らす計画で、医師1600人、看護師5800人に影響します。いのちをなんだと考えているのでしょうか。

また、菅政権は、過去最高の軍事費と同時に、改憲手続国民投票法も強行し、総選挙後は、平和憲法そのものに手をつけようとしています。被爆二世として許すわけにはいきません。

総選挙、ぶれない日本共産党の躍進と市民+野党の共闘で、改憲勢力3分の2を衆議院でも必ず阻止し、政権交代でいのち・くらし・尊厳を大切にする政治を実現する決意です。



写真は4月11日 鈴鹿市文化会館に来ていただいたときのものです。

東京都議選に続き、 総選挙でも大躍進を

鈴鹿市日本共産党後援会長 吉田一男

7月4日(日)投票の東京都議会選挙で共産党は18議席から19議席に前進しました。さあ、いよいよ衆議院選挙です。共産党は、選挙区では野党共闘の勝利を、比例区では共産党候補の躍進を目指します。



地域のみなさんと話をしていると、「こんな時期にオリンピックをする必要はない」という声がたくさん聞かれます。それでも何としてもやるという菅首相。彼にとっては、オリンピックを成功させて、下がりっぱなしの支持率を一気に高めたいという思惑があるのでしょうか。果たして思惑通りに、ことはすすむでしょうか？オリンピックで世界に感染を広げてしまい「感染爆発！パンデミック東京五輪」を強行した総理大臣として彼の名が残ることを心配します。

今からでも遅くはありません、五輪中止！の決断をしてほしいものです。そうでないなら、秋の総選挙で私たち国民は、菅総理の責任を問う結果を断固として示すことになるでしょう。

(寺家4丁目)

コロナ禍での政権批判がはっきり出た都議選

7月4日に投開票された都議選、結果についていくつかの視点から考えたい。

①共産党は告示前の18議席を上回る19議席に。2013年、17年に続いて伸ばすことができた。数票差で議席に届かなかった選挙区もあったが、3回続けての前進はうれしい！

②衆院選を見据えて一部選挙区で候補者調整をし、共闘態勢をとった共産と立憲民主は議席を伸ばした。しかし「連合」から横やりが入っており予断を許さない。

③事前のマスコミ予測では、自民大幅増、都ファ大幅減が言われていたが、コロナ禍での政権批判が自民党を直撃した。共同通信社が実施した出口調査によると「支持政党なし」と答えた無党派層の投票先は都民ファに24.9%、共産党17.6%、立憲民主党15.3%、自民14.5%、公明党6.2%の順だった。無党派層における自公への支持低迷が露呈した。

④都議選の結果は国政の行く末を占うといわれてきた。それは東京は無党派層が多く、敏感な世論を反映しやすいとされるからだ。コロナとオリンピックという大

きな争点があったにもかかわらず、投票率は42.39%で、前回、4年前の選挙より8.89ポイント低く都議選では過去2番目に低い投票率となった。

⑤共産党の全国比例での得票は、2014年、2016年と600万票を超えたが、その後2回の選挙では400万票台に低迷している。東京都議選の結果は前進の可能性を示してくれた。カギは野党共闘と投票率向上。衆院三重2区では自民党が候補者を若返らせ議席奪還を狙っている。がんばろう。（岸岡 橋詰圭一さん）

	今回	告示前
自民	33	25
都民	31	45
公明	23	23
共産	19	18
立憲	15	8
維新	1	1
ネット	1	1
無	4	5
合計	127	126
投票率	42.39	51.28

SNSってすばらしい！

鈴鹿市議会議員 高橋さつき



最近とても感動することがありました。SNSから元患者さんの若いお母さんと繋がったことです。私は以前働いていた職場で、彼女に優しく声掛けをして治療の怖さと緊張を解いたそうで、とても嬉しかったと話してく

れました。その後、私の看板を見て、議員になったことを知り、活動をFacebookで見せてくれました。

彼女は子どもが生まれてから、食育のことを学ぶにつれ、環境問題や政治にも関心をもつようになったそうです。諦めるのは簡単だけれど、親として大人として、大人たちの都合やツケを次の世代に引き継がせたくない、子どもの未来が少しでも良くなるようにと活動をしているそうです。

『議員さん』ってのは怖くて、話を聞いてくれないよう

なイメージを持っていたのですが、私のゆる〜いFacebookの投稿に親近感を持ってくれたようで、連絡してきてくれたのでした。

こんな素敵なお母さんと繋がるなんて、SNSって素晴らしい〜！！そういえば今も一緒に活動しているパワフルなお母さんたちもスタートはSNSです。恐るべしSNS！！

そんなこんなで元気をもらいました！私たちの暮しや願いから、大きくかけ離れている政治に対し、黙っては変えられません。

東京都議選に続き、秋までに総選挙があります！怒りを声にかえて、子どもたちにも高齢の方にも明るい未来社会をみなさんと一緒につくっていきたいです。『比例は共産党』を合言葉にして頑張りましょう。

それにしても、「しっかりメイク」の別人のような看板から、よく高橋と気づいてくれたなあ(笑)



コロナ感染第5波をどうして防ぐ？

鈴鹿市議会議員 石田秀三



6月議会でコロナ問題について質問しました。ポイントは「ワクチン接種」と「検査」の2点でした。ワクチンについては、市は「ワクチン接種推進課」を設置し、高齢者から順次すすめています。また、介護事業に従事する方や保育所、学校をはじめとする「エッセンシャルワーカー」(社会生活を支える仕事をする人)への優先的な接種の体制も出来つつあります。私の質問や指摘にも具体的に答えて、改善も行なう答弁がありました。

ところが、2つ目のポイント「検査」については、私が求める「広く社会的検査を行なう」ことへの答えはありません。と言うより、答えるべき人がいないのです。

「ワクチン」は市・「検査」は県、いっしょに出来ない

「ワクチン接種」は市の仕事ですが、感染症そのものへの対応は県の保健所、感染者の「検査」は県の仕事として分かれています。担当する市の健康づくり課に聞いても「保健所から情報をもらっている」という感じです。市のPCR検査センターでの検査結果も保健所がまとめています。

なぜこうなるのか？先進的に広く社会的検査を行なっている北九州市や広島市は「政令市」、世田谷区や墨田区は「特別区」、この市区は保健所を持っている自治体です。保健所が「ワクチンも検査も」一体の仕事として戦略的に行なっています。そうでない鈴鹿市は、県保健所との連携がしにくい仕組みなのです。

「無症状の感染者」見つけて保護する検査が重要だ

コロナウィルスの最大の特徴は、「無症状の感染者」から広まっていくことであり、検査によって「無症状の陽性者」を見つけて保護することが重要です。ところが今のPCR検査は、症状の出た人とその周りの「濃厚接触者」に行なうことが基本で、その外側の人にも広く検査を行なうことが出来ていません。

ワクチン接種が進んできたのは高齢者、しかし感染が広がっているのは若者から働き盛りの50代までの年代。このギャップが解消されないままに第5波が来るのではないかとワクチンが間に合わないのなら、せめてエッセンシャルワーカーの周辺から、広く検査を行うべきでしょう。ワクチン接種が世界107位、PCR検査が141位と遅れた日本の現状を、今からでも挽回する努力をすべき時です。



待ち望んでいたオリンピックだけど

東京オリンピックまで残り1ヶ月を切りました。2013年に東京オリンピックの開催が決定されてから、多くの国民が待ち望んできたことだと思います。昨年の新型コロナウイルスによる延期もあり、ようやくの開催となりましたが、皆様はどのようなお気持ちですか？私は正直嬉しくありません。なぜなら、修学旅行や学校行事、対面授業すらできていない学生がたくさんいるからです。なぜ私たちの学生生活が制限されているのに、オリンピックは開催できるのでしょうか。私たち学生は、4年に一度のオリンピックより、一生に一度の青春を謳歌したいと思っています。



オリンピックを心待ちにしている人や日本の政府の皆様は、オリンピックが行われている裏側で、学生の学びや楽しみを犠牲にしていることを十分に自覚していただきたいです。

(神戸 高橋 凜さん)

IOCのえげつない正体が見えた！

コロナ禍のもとでのオリンピック開催に多くの国民が反対しているにもかかわらず、政府は何が何でも開催するつもりらしい。菅総理は党首討論で共産党の志位委員長から「命の危険にさらしてまで五輪を開催する理由はないか」と問われまったく答えられなかった。なんという情けないことか！菅総理はオリンピックが終わったら国民は「菅総理ご苦労様、選挙では自民党に入れるよ」と言ってくれるくらいに軽く考えているのだろうか。冗談じゃないですよ、まったく。まだ中止させることは可能だ。もっともっと「オリンピックやめて」の世論を広げていこうではないですか。それから、もう一つどうしても言いたいのはIOC(国際オリンピック委員会)という組織のなんともえげつない本性だ。五輪貴族とも言われるこの団体には「スポーツを通じて云々」という高尚な思想などまったくなくともよくわかった。あるのはスポーツをネタに巨額のマネーを懐にいれる発想だけである。



「オリンピックは中止にしてコロナ対策に人と金をまわせ」、この国民の声に菅総理もバツハ会長も、もっと真剣に耳を傾けよ！

(桜島 谷口 茂さん)

地域との繋がりを持てる社会に

日本人の寿命はどんどん延び、人生80年時代から100年時代へと向かおうとしている。もともと独り身のものや、配偶者の死で独居生活を送る老人が増えている。その中には、天涯孤独者や家族との絶縁者もいる。その人たちが介護制度をうまく利用できておらず「孤独死」を招いているのが現状です。

自治会に加入せず、独居で、死後何日も経過してからアパートの管理人が見つけたというのを、最近聞いたところ。これからますます独居老人が増えると思います。小さな単位からでいいので働きかけをし、地域で見守っていくという昔のようなご近所との繋がりのある社会が必要な時代になってきたように思われます。



誰もが地域と繋がりを持ち、安心できる社会を築けるような世の中を希望します。日本共産党は日本の明るい未来を作ってくださいと信じています。陰ながら応援させていただきます。お待ちしております。

(寺家 ランランさん 介護福祉士・50代・女性)

僕は湯灌・納棺師

~You can know count a seed.~

この仕事を始めて十数年、葬儀の移り変わりを肌で感じてまいりました。

それは一言では言い表しにくいのですが、「葬儀の小規模化」は避けては通れないことの一つです。

コロナ時代に突入し「それ」は加速度を増しました。その中でも僕が特筆したいのは「孤独死」です。

昨今は、人と人の繋がりが希薄になり、孤独死のケースが少なからず増加傾向にあります。誰にも助けを求める事もできず、誰にも看取られる事なく、発見が1週間後などのケースも珍しくありません。最近立ち会った方は、40歳男性で死後3週間、出稼ぎで身寄り無し、発見は知人。孤独死に年齢は関係ない。悲しい事実です。

大切な人を大切に思う気持ち一つ一つが、孤独死を減らす第一歩です。



(寺家 Tさん 30代・男性)

新シリーズ
鈴鹿の街 再発見

地名の由来 伊船町

第5回

入道ヶ岳や野登山に近い、鈴鹿市の西部にあるのに、どうして船？長年の疑問が、「鈴鹿の地名」(伊藤俊一著)で解決しました。古来から、御幣川(おんべがわ)の若鮎を伊勢神宮に奉納する習慣があり、漁をする舟を所有するか、伊勢神宮から貸し与えられていたので伊船になったと考えられるそうです(伊は伊勢あるいは伊勢神宮の伊)。

伊船で生まれ育った大先輩に聞いてみると、ちゃんと知ってみえました。小学校に入る前の年くらいに、若鮎を奉納するために神事をしたことを憶えていらっしゃるそうです(昭和10年に若鮎奉納が一度復活し、それ以後は行われていないと「鈴鹿の地名」に記述されている)。御幣川は伊船町の南側を流れており、深い川底まで透き通って見えるきれいな川です。昔は、鮎やうなぎやなまずがたくさんいて、タモで何匹も採れたと大先輩が話してくれました。もちろん、夏は子どもたちが泳ぎまわる自然のプールになっていたそうです。

(伊船町 石田喜代子さん)



御幣川(おんべがわ)

<お知らせ>

7月24日(土) みえ市民連合連絡会主催「中野晃一講演会~いのちと尊厳を守る政治へ~」が開かれます。14:00~三重県総合文化センター視聴覚室にて。参加費は無料で、どなたも参加できますが、事前申し込みが必要です。鈴鹿の人は090-1292-5588(山本さん)または090-1821-4997(吉田)まで。